

事業計画書

事業名	青空カフェ事業	
重点テーマへの該当	① テーマ	未就園児や保護者の居場所をつくる取組
	無	
実施箇所	佐久市内の公園等	
実施期間	事業開始予定年月日 2021 年 4 月 1 日	
	事業終了予定年月日 2022 年 3 月 31 日	
	<事業の目的> 産前産後の母親や育児中の母親及び父親が経験する、人間の基本的欲求が満たされない中で命を育てるという不安で大変な日常を過ごしている、という育児の大変な現実がある。その結果起きているのが、「産後うつ」や「虐待」「自殺」、「親の孤独・孤立感」である。主に室内での支援をしている公的な育児支援の場に行きづらい親子は、支援の対象から外れることも多い。本事業は、公園のような自然の中で親子の居場所や育児の情報交換や交流の場を必要としている親子の声に答えるため、主な活動の場を佐久市内の公園とし、佐久市の素晴らしい自然環境の中で、こどもは五感をフルに活用しながら遊び、大人も楽しくゆったりと過ごしながら人との繋がりを広め、また情報をえる機会となる、そんな場と時間の過ごし方を提供することを目的とする。	
事業概要	<事業の内容> 別添構想資料参照 ●対象：主として未就園児及びその親、妊婦、不登校児及びその親、シニアの方も。 ●実施時期：カフェ月1回、ワークショップ又は部活動等1回 ●場所：佐久市内の公園や森、田畑等の屋外を主とする（別紙開催予定場所資料参照）（雨天時や冬季は、公民館の部屋も併用して開催予定） ●規模：1回あたり未就園児を主とする親子10組、大人単身参加10人程度 ●告知方法：紙ごみを出さないために告知はSNSをメインとし、すでに知っている方からの口コミやシェアにより広めていただく。ただし、幅広く周知するためにさくサポ等多世代が集まる場にはポスターにより掲示予定。 ●運営方法： 〈参加者との約束〉（団体として大事にしていること） 誰のことも、どんな考えも、どんな思いも、どんな遊びも否定しない 「すみません」ではなく、「ありがとう」でつながる 苦しい、大変なときは誰かに伝える、頼ってみる、我慢や無理をしない 楽しい！好き！やりたい！気持ちを大事にする ゴミを極力出さない、増やさない 〈カフェタイムの運営〉 テーブル、椅子、レジャーシートを広げ、参加者は名前をペンで明記したテープ等を貼り付け、その場で会った方と交流を図りつつ、 育児の悩みや不安をシェアしたり、情報交換をしたり、こどもは遊びながら大人も自由に好きなひとときを過ごす。	

〈ワークショップ・部活動タイムの運営〉別添構想資料を参照

ワークショップでは、産後のお母さん特有にある不安な気持ちや孤独感等の緩和のために、主語を「私」にして自分の考えを話す時間を提供する。（具体的には、自分でできるエコな取り組み、お産の振り返り、子供に伝える性について考える等）

その際、付箋等を用いて「自分の見える化」を積極的に行い、孤独感や孤立化等の不安解消、産後うつ回避につなげるとともに、母同士の繋がりを深める。また、手芸等の趣味でつながる部活動を設けることで、好きでつながる人との関係性が生まれ、作業中に話す雑談が育児疲れの解消につながる。

〈保育・託児〉

子どもを見ていてもらいたい人は、保育士等に声をかけお願いすることができ。このことにより、普段「助けて」を言えないお母さんが

「助けて」を言える、頼っても良いのだということを知る機会となる。

〈その他〉

- ・農家さんが出荷できない野菜や自宅で収穫した野菜等、お裾分けできるもの、したいものがあれば、それを持ち寄りシェア

- ・自分が得意とするもののシェアも可とし、子どもを持つてからの自分の働き方を考えるきっかけにさせていただく

（自分が働きたい働き方の選択という思考の変化にもつながる）

- ・保育士、看護師、教師、助産師、ヨガインストラクターがメンバーにいますので、子どものことだけでなく産後の体について等の相談もその場で受け付けている。

- ・安全対策に関して保育士のメンバーが主となり全体を見ながら危険がないか都度確認している。

★コロナ対策

参加前：体調確認や親族での発症者の有無、感染多地域への行き来確認を行う

当日：消毒液の設置、石鹸による手洗いの奨励（入場時及び帰宅前）

検温の実施、マスク着用での参加、マイカップ・マイ皿持参

人との距離を2メートルをとるよう積極的な声がけ

以上をメンバーだけでなく参加者にも協力をお願いし対策を行う。

★これまでの実施内容

昨年9月にスタートし、初回（場所：鼻顔稲荷公園）参加親子6組+大人5名（うち男性3名）。農家さんから野菜の寄付が3件、不要になった洋服の寄付があったりと盛況に終え、参加者からこのような場が欲しかった、続けて欲しいとの声を多数頂く。

第2回10月（場所：長野牧場）は、親子8組+大人7名（うちシニア4名）、子どもたちはやぎと戯れつつ、はらっぱを駆け回る姿があった。

第3回11月（場所：中嶋公園）は、参加親子15組+大人7名、紅葉をみて楽しむ子もいれば、落ち葉で遊び回る子もいたり、また不登校の小学生が生き生きと遊ぶ姿が見られた。（そのお母さんたちの感想：「学校へ行かないと子ども同士のふれあいがとても少なくなってしまうので、こどもの笑顔がみれてホッとしました」）また、未就園児（生後2ヶ月～）連れの親子の参加や単身の大人の参加も多数あり、積極的な交流が見られた。12月は、農家さん協力のもと畑とハウスで開催予定でしたが、諸事情により中止。

回を重ねるごとに、大人は性別問わず、年代問わず参加される方の幅の広がりがあり、また子どもも生後1ヶ月～小学生（不登校児）まで

参加があり、多様なニーズに答えられていること、このような場が必要とされていることがより明確になってきている。

年間計画	<達成目標> ・安心安全な場であり続けること ・コロナ禍で出産または妊娠された方への参加を図っていく ・今年度サークル・部活動時間を新しくスタートさせ、「私」を主語に自分の考えや思いを伝え合う時間をもつことで、さまざまな考えを通して多様性の理解や、共感しあう時間をもち、繋がりを深める。	
	<広報表示の方法> 「令和3年度 佐久市佐久っと支援金活用事業」と物品へはシールにて表示、印刷物等へは文言の挿入にて表示	
	<重点テーマに該当する場合 該当する理由> 開催時期を定期とすることで、継続的な居場所となり、また、活動対象が、主に育児中の親及びその子どもであり、公的機関で設定されている 育児支援が不都合と感じている親子の受け皿となり得るよう異なる手法の場づくりを行うことで、子育て中の親の選択肢を増やすことができ、佐久市における育児支援に対する多様なニーズに答えることができる。また、活動メンバーが、実際に子育て経験者（現在子供が0歳から小学生、双子母も在り）であり、かつ助産師、保育士、教師、ヨガインストラクター、移住者という多様な社会的背景があることにより、育児・教育に関する情報交換や育児中の不安や悩み相談にも幅広く答えることが可能となっている。	
	4月	青空カフェ お花見会 @市内公園 各部活動
	5月	青空カフェ @市内公園 お散歩会 各部活動
	6月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	7月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	8月	青空カフェ @市内公園
	9月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	10月	青空カフェ @市内公園 お散歩会 各部活動
	11月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	12月	青空カフェ @市内公園 各部活動

	1月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	2月	青空カフェ @市内公園 各部活動
	3月	青空カフェ @市内公園
特記事項	地域や社会にどのような利益がもたらされるか	<「公益性」の視点> ・多世代交流の場 母親や未就園児に限らず、不登校児、父親、シニアの方の参加もOKとし、子どもという存在を通して大人が元気になれる場となる ・育児中の母親の社会参画 佐久市内で活躍されている様々な働き方をしている人と知り合うことを通して情報交換ができることで、働き方の選択肢が広がり、自分が働きたい働き方を考えることができ社会参画意識が高まる ・育児中は親の基本的欲求を満たされない生活が続き「産後うつ」「自殺」「児童虐待」「お母さんの孤立化」につながってしまうという事実がある中で、昨年からのコロナの流行により、よりそれらの問題の深刻化が懸念されている。本事業は、それらの課題へ少しでも助けになり得る活動である。
	どのような点に独自性や工夫があるか	<発想の豊かさや創意工夫の視点> ・佐久市内の多数の公園で実施することで地域の魅力発見へ 行ったことがない、知らなかった公園や場に行くきっかけとなり、佐久市の新たな魅力発見に繋がる ・佐久市の自然環境を学ぶ機会に 公園等屋外で事業を実施することで、目・耳・鼻・肌で自然を感じ、知ることができ、子どもがそれを幼いころに経験することで、自然を大切にする気持ちを育むことができる。また、大人も佐久の自然の中で遊ぶことの楽しみの発見に繋がり、佐久の自然環境に対する新たな気づきの機会となる。 ・母親の社会復帰及び自立支援 自分で事業を行なっていきたいと考える方の挑戦の場として使ってOKとしている (ただし、販売金額の設定は利益を求めたものでないものとする)
	市内へどのように取組が波及していくことが見込まれるか	<「波及効果」や「発展性」の視点> ・様々な母力を集い、その発表の場となるマルシェをする (お母さんたちが将来やりたいと考えている仕事や夢の実現の一步となる場とする、また子どもたちが企画するお店も出店という形で構想中) ・移住者の移住後の情報交換の場となる ・「お散歩会」や「味噌づくり」といった企画を作ることで、地域の方に講師や案内をいただく機会をつくり、車生活だと気づかない地域の魅力を発見したり、地域との繋がりができたり、地域を知るきっかけとなっていくことが見込まれる

活動を継続するために どう取り組むか	<「自立性」の視点> ●資金の確保 ・参加費の徴収 ・ワークショップの企画 ・寄付金の検討 ●人材確保 ・主たる活動メンバーは、常に募集。活動条件に、主たる活動者の心身の状況により、いつでも参加者側になることをOKにし、子育て中の母たちだからこそ無理なく続けられるように配慮し取り組む
翌年度以降の活動内容概要	・継続的な親と子の安心安全な居場所づくり及び地域との交流推進 - 安心の確保：どんな意見・考え・遊び・あり方も否定しない - 安全の確保：開催場所に関して>事前に開催場所の下見を行い、危険なもの・場がな いか確認地域生活に関して>地域と顔の知った繋がりを広める ・社会福祉協議会や他の市民団体と連携を検討中 ・講演会、マルシェの企画
事業の最終目標	・産前産後のお母さんの不安解消、産後うつの回避、お母さんの孤立化回避 ・出産・育児の多様な情報交換の場があり、育児に選択肢がある状態をつくる ・助け合う絆（ヘルプが出せる関係性がある）を生み出す ・不登校児とその親のほっとできる居場所となる ・地域のシニアもふらっと来ることができる多世代交流の場となる